

学校法人 久留米工業大学

---

久留米工業大学

祐誠高等学校

専門学校 久留米自動車工科大学校

久留米自動車学校

専門学校 久留米自動車工科大学校教習部

学校法人 久留米工業大学

# 事業計画書

令和5年度

令和5年3月14日

---

理事会  
評議員会

## 目 次

■法人本部 .....	1
■久留米工業大学 .....	3
■祐誠高等学校 .....	6
■専門学校 久留米自動車工科大学校 .....	8
■久留米自動車学校 .....	10
■教習部 .....	12

## ■法人本部

### 概要

私立学校を取り巻く環境は、少子化の進行、急激なAIの進展、脱炭素社会に向けた取り組み、学校法人制度の改革など大きく変化しています。さらには、コロナ禍における社会の在り方や教育環境の変化により一層の厳しさを増しています。

このような厳しい状況の中、本法人がこれからも持続的に経営を行っていくためには、法人としての総合力を向上させ、様々な環境の変化に適切かつ迅速に対応すること及び安定して成果を発揮できる組織体制を構築・維持して健全で安定的経営を確立する必要があります。

このため、法人としてのガバナンス機能の向上、業務改革の推進、財政基盤の確立及び組織体制の構築を図っていきます。

### I 法人ガバナンス機能の向上

#### 1. 理事会・評議員会・常任理事会のガバナンスの向上

##### ①法改正への適切な対応

- ・学校法人ガバナンス改革会議及び学校法人制度改革特別委員会の答申など、国の動きを的確に把握し、法改正等への適切な対応を図る
- ・文科省主催の法改正研修会などから情報収集を行う

##### ②適切な情報発信

- ・学校法人として積極的に情報を開示し、HPへの掲載方法等についても見直しを検討する
- ・法人職員への的確・適切な情報発信に努める

#### 2. 監査部門との連携強化

##### ①監事との連携

- ・常勤監事と理事長による定期ミーティングを実施し、連携を強化する
- ・監事と内部監査部門との情報共有を密にし、連携を強化する

##### ②公認会計士との連携

- ・年間をとおして公認会計士監査を行うとともに連携を図って行く

##### ③内部監査の充実

- ・公的研究費などの内部監査を引き続き実施する。
- ・監事及び公認会計士と連携し、内部監査の充実を図る

### 3. 中期計画の進捗管理

#### ①実施計画の進捗管理

- ・実施計画の進捗状況の確認を行い、必要に応じて計画の修正等を検討・実施する

#### ②財政計画の進捗管理

- ・財政計画の進捗状況の確認を行い、必要に応じて計画の修正等を検討・実施する

### II 業務改革の推進

#### 1. 働き方改革等の推進

##### ①時間外労働の縮減

- ・職員の業務等について分析を行うほか、職員アンケート等も活用しながら、縮減に努める

##### ②多様な働き方の検討

- ・多様な働き方について調査等を行い、検討を図る

##### ③職場環境の整備

- ・職場環境について計画的に調査等を実施し、改善すべき点等について検討を行う

#### 2. 業務改善への取り組み

##### ①業務改善

- ・各職場での業務改善状況等についてフォローを行っていく

### 3. デジタル化の推進・検討

#### ①文書等のペーパーレス化

- ・ペーパーレスシステム化に向けて、様々な観点から検討を行う

#### ②電子帳簿保存法への対応

- ・現行の経理システムに電子帳簿保存対応のオプションを追加し運用を行う
- ・10月から開始のインボイス制度に向け内部研修を行うなど対応を進める

#### ③会議のオンライン化

- ・各種会議のオンライン実施に向けた課題等について抽出し、検討を行う

#### ④法人全体の広報

- ・主要道路案内看板の継続実施
- ・ホークスパートナーズによるバックネット広告実施
- ・西鉄バスでの音声案内、JRでのスタンド設置実施
- ・広報誌及びHPの運用
- ・SNSやweb広告など、ICTを活用した広報の検討

## | III | 財務基盤の確立

### 1. 精緻な予算管理

#### ①適切な予算編成

- ・法人本部による予算ヒアリング及び調整の実施
- ・理事長ヒアリングの実施

#### ②適切な執行管理体制

- ・事業の執行状況について、各学校でのチェック体制や状況を確認する

### 2. 収支の確保

#### ①学校部門での収支確保

- ・予算ヒアリング等による調整を行う
- ・学生等確保のため、法人全体の広報を実施し、全体としての知名度向上を図る

#### ②収益部門での収支確保

- ・収支状況を定期的に確認し、収支状況について各部門との連携の強化を図る

### 3. 安全で効果的な資産活用及び資産運用

#### ①資産の有効活用

- ・法人内資産の有効活用の観点から検討を行う

#### ②資金運用

- ・資金の安全かつ有効な活用の観点から、運用を行う

## | IV | 組織体制の構築

### 1. 人事マネジメント機能の充実

#### ①計画的人事・採用・異動等

- ・新卒採用及び経験者採用を計画的に実施し、組織の新陳代謝や年齢構成等の平準化を図って行く

#### ②組織の活性化及び見直し

- ・業務の見直しを実施するとともに、組織の見直しも行き、限られた人員の中で組織の活性化を図って行く

### 2. 人材育成

#### ①職階別研修

- ・職階別の研修を計画・実施する
- ・オンラインによる研修を継続して実施し、研修の充実を図る

#### ②人権・ハラスメント等研修

- ・ハラスメント等の研修を計画・実施する
- ・部内研修等の実施により、各部署で必要なOJTを実施する
- ・オンラインによる研修の導入を図り、研修の充実を図る

# 久留米工業大学

## 概要

新型コロナウイルス感染症の拡大から早や3年が経過し、政府からはこの5月から感染法上の取扱いが一定の経過措置を取りつつも季節性インフルエンザと同じ「5類」へ移行する方針が出された。この間、本学においても授業形態の変更や学生生活全般の制限等により、学生の休学、退学が増加するなど影響は甚大であったが、状況の変化に適切に対応し、学生相談の充実をはじめ様々な対策と工夫を重ねることで、3年ぶりの愁華祭を実施するなど学生生活の回復に取り組んできたところである。今後もこうした取り組みを継続し、安心安全な環境の中で、できるだけ有意義な学生生活が送れるよう、引き続き努力を重ねていく。

こうした中でも、教育・研究活動の充実に向けての取り組みは活発に行われ、特に本学のAⅠ応用研究所を中心に展開する「地域課題解決型AⅠ教育プログラム」が、文部科学省の数理データサイエンス・AⅠ教育プログラムのリテラシー・応用基礎の両レベルで、特に優れたプログラムとして「MDASH+（プラス）認定」を受けることができた。両レベルでの+（プラス）認定は、全国で4大学、私学では本学のみであり、その後の文部科学省補助事業「DX高度専門人材育成事業」の認定にもつながっている。

また、先行して研究ブランディング事業で取り組んだ「自動運転車椅子パートナーモビリティ事業」も社会実装段階を迎え、大学発ベンチャー企業とともに、全国数カ所での地域貢献事業として展開している。

今後は、これらの取り組みをさらに前進させ、本学の特色ある教育・研究活動である「AⅠ×ものづくり」として全学的に展開することにより、国が進める「成長分野をけん引する大学としての機能強化」への対応を図り、少子化の中でも選ばれる大学としての基盤をさらに強固なものとしていきたい。

なお、令和5年度ではこれらを支える教育環境として、情報教育等に使用する高機能PC等の教育機器の刷新を予定しており、最先端の教育への対応を図りたい。併せて、これまで準備してきた新教学システムの本稼働を予定しており、円滑なデータ移行を進めると

ともに、きめ細やかな学生支援にしっかり活用したい。さらに、新しい教育・学修活動の展開に必要な講義・研究・学生交流施設の計画・設計にも取り組んでおり、作業の円滑な推進に努めたい。

## II 教育

### 1. 入学から卒業までの一貫した学生支援

- ①組織横断の学生支援体制の確立
  - ・教職協働の学生支援を年間ワークフローに基づき遂行する
- ②エビデンスデータに基づく教育の質保証
  - ・データベースを活用した3ポリシーの多面的評価を行う

### 2. 戦略的學生募集と多様な學生の受入れ

- ①多様な學生の受入れ
  - ・入試・入学前教育・初年次教育の連携を実施する
- ②共感できるユニバーシティアイデンティティによる學生募集
  - ・スモール、スマート、スペシャルという「ス！」のコンセプトのもと、アドミッションポリシーと學生の成長の関連性を検証する
- ③教育ブランド力の強化
  - ・教育力を伝えるためのブランディング施策を検討する
- ④重点高校との連携強化
  - ・出身學生の学修成果の情報共有や入学前教育について、重点校と連携しながら検討する

### 3. 教育内容の質的転換

- ①IRを活用したカリキュラムマネジメントの確立
  - ・ナンバリングルールの確定及びシステム登録をする
- ②アセスメントを通じた“成長実感”の可視化
  - ・授業評価アンケートの結果を他のアセスメントデータと合わせて分析する
- ③課題解決型地域連携教育の展開
  - ・PBL連携先の更なる開拓をする

#### ④大学院教育プログラムの見直し検討

- ・専攻の一本化について前年度の結果を踏まえ、大学としての方向性を審議する

### 4. 学生支援の充実

- ①学生生活支援の充実（退学防止対策の強化）
  - ・支援の具体的内容が適切であったか否か検証を行う
- ②課外活動支援の充実
  - ・学生が必要とする資格を随時支援の対象に含める

### 5. 就職活動支援

- ①キャリア形成科目の質的転換
  - ・低学年から継続的に学ぶことによるバランスの取れたキャリア教育の構築を目指す
- ②社会構造の変化に応じた企業開拓と個別就職支援の強化
  - ・新規開拓のため、企業訪問を計画し実施する
- ③卒業生へのサポート
  - ・Uターン就職希望者に対して、地元企業への就職支援体制作りに取り組む

## | II | 研究

### 1. 大学院の充実

- ①大学院における実践的産業人育成のための教育力強化
  - ・大学院生の研究成果発表に対する褒賞制度を運用する
- ②新しい知と技術に向き合うための研究環境整備
  - ・各研究所、各専攻において、研究環境の整備計画を実行する
- ③優秀な大学院生の獲得
  - ・全学部生に向けた本学大学院の広報活動計画を立案し、実行する

### 2. 研究力の向上

- ①オンリーワン技術創出のための研究支援
  - ・重点支援領域及び新規分野の研究支援を行う
- ②大学院の教育・研究体制強化
  - ・論文掲載の義務化を推進する（査読付き学会論文誌等）
- ③研究IRの推進
  - ・研究力指標に基づく研究力評価を実施し、報告書を作成する

### 3. 戦略的な外部資金獲得

- ①研究マネジメント体制の構築
  - ・各学科、専攻及び研究所での研究マネジメントを実施する
- ②外部資金獲得のための支援強化
  - ・科研費申請書ピアレビューのためのFD研修会を実施する

## | III | 社会貢献

### 1. 産学官連携

- ①産学官連携の推進
  - ・受託研究・共同研究の増加を図る
- ②知の拠点の形成
  - ・社会問題解決の組織により、様々な公募事業に申請する
- ③ブランディング強化
  - ・メディアに取り上げられる回数を増やす

### 2. 社会・地域貢献

- ①地域技術支援体制の構築
  - ・「ものづくりセンター」の認知度を高めるPR方法を検討する
- ②初等・中等教育機関を巻き込んだ地域への技術教育
  - ・AI応用研究所と連携し、初等・中等教育機関に対するニーズ調査を実施する
- ③社会人リカレント教育の充実
  - ・要望の多いテーマと開催方法で秋期公開講座を開催する
- ④学生の社会参画支援
  - ・災害発生時等の学生ボランティア支援体制を整える

## | IV | 国際化

### 1. 学生の国際化

- ①グローバルな社会で活躍できる人材育成
  - ・語学研修プログラムとしてバーチャル体験留学を継続して行う

### 2. 国際化に向けた戦略的な留学生獲得

- ①優秀な留学生確保及び支援
  - ・留学生フェアに参加し、留学生の募集を継続的に進めていく

### 3. 国際化推進体制の整備

- ①国際化に対応できる大学
  - ・国際化を推進するための、研修、人材交流、情報収集を継続して促進する

## | V | 経営

### 1. 組織

- ①大学運営組織の見直し活性化
  - ・委員会活動状況調査を実施し、課題を抽出する
- ②DXを活用した効率的な事務運営・管理体制への改善
  - ・新教学システムの運用を開始する

### 2. 人事

- ①専門知識を活用できる職員の確保及び能力開発制度の充実
  - ・計画的体系的な能力開発制度を検討する
- ②教職員の意欲につながる人事評価・給与制度の構築
  - ・評価制度の検討を進め、結果を踏まえ施行する

### 3. 財務

- ①外部資金・寄付金等の確保と基金の充実
  - ・新外部資金確保制度の検討を進め、試行的に実施する
- ②中長期的な施設整備維持計画
  - ・中長期的施設整備計画を策定する

### 4. 情報発信

- ①大学活動の積極的な情報発信・意見収集
  - ・大学広報年間計画を策定する
- ②学生募集広報の最適化
  - ・教職員参加広報を実施する

## | VI | 内部質保証

### 1. 内部質保証の組織体制

- ①内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立
  - ・自己点検・評価を行い、その結果を踏まえた改善方を次年度の実施計画に反映させる

### 2. 内部質保証のための自己点検・評価

- ①内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評

価の実施とその結果の共有

- ・自主的、自律的な自己点検・評価を実施する

- ②IRを活用した十分な調査・データの収集と分析

- ・IR推進センターを中心に、種々のデータ分析を行い、教育・研究等の改善のために活用する

### 3. 内部質保証の機能性

- ①内部質保証のための学部、学科及び研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組みの確立とその機能性
  - ・「アセスメントポリシー」に従い3つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価を行う

# ■ 祐誠高等学校

## | 概要 |

筑後地区では、令和5年3月に卒業する中学3年生は、前年比で約120名減少となる。本校の重点募集地区の久留米市においては、前年比約80名の減、八女市、広川町、筑後市においては前年比で微増の状況である。

令和5年度入試から久留米市立の久留米商業高校と、南筑高校が特色化選抜を導入した。久商においては、定員240名に対し特色化選抜で173名の合格を出し、南筑高校においても、定員240名に対し198名が合格しているという状況である。また、令和5年度入試で、筑後地区の県立高校で特色化選抜を実施したのは、八女、山門、三潴、三井、大川樟風、八女農の6校で、これは本校にとって脅威であり生徒募集において苦戦する大きな要因となっている。さらに、私立高校の生徒募集状況についても、久留米市は比較的交通の便が良く、福岡地区及び筑後南部地区から生徒獲得の波が押し寄せている。

このような中、本校が存続していくためには、中学生及び保護者から魅力のある学校として認められなければならない。そのためには、生徒達にとって充実した教育内容と進路保障を確立していかなければならない。そして、本校に設置している工業科及び普通科それぞれの特長を最大限に活用して、強みとしてアピールしていくほか、後援会等の協力を得て、校内の教育環境の整備を行っていく。

## | I | 経営改革

### 1. 業務改善

#### ①校務分掌の見直し

- ・令和4年度に導入した学務システムにより、教務部と学級担任が連動し業務が効率化した。今後はシステムを検証しながら、段階的に進路や事務に連動できるように見直しを進めていく
- ・教員が担当していた業務の一部を、本来受け持つべき部署へ移行することにより、教員の業務軽減を図る

### 2. 財政の健全化

#### ①授業料の改定計画

- ・令和6年度入学生からの授業料変更に向けて準備を行う

### 3. 将来設計

#### ①人事計画

- ・若い人材の採用と体制の検討を行う
- ・再雇用満了者数と不足教科を鑑み、常勤講師以上を新規採用する

#### ②設置学科・コースと学則定員の見直し

- ・航空ビジネスコースについて R6 年度入試から募集を停止する
- ・学科、コースの改名や改編等について検討する
- ・現在の普通科 300 名、工業科 400 名、計 700 名の入学定員を現状に見合う適正数に見直す検討を行う

## | II | 教育内容の充実

### 1. 特色ある教育

#### ①特色を出すカリキュラム

- ・情報技術科の PC 導入に伴い、本校しかできない教育・実習の内容と成果を検証し、他の科も新たな特色について検討する

#### ②資格取得

- ・工業科の柱でもある資格と国家試験に積極的に取り組みジュニアマイスター取得を目指す
- ・普通旋盤技能士(機械)、三級自動車整備士(自動車)、英語検定2級(航空)、土木施工管理士・測量士補(土木)、ITパスポートなど(情報)

#### ③進学実績

- ・普通科進学系のブランド化を目指すため、コース別アドミッションポリシー(難関国公立大学・医学部の合格を目指す(特選)、国公立大学・難関私立大学の合格を目指す(特進)、有名私立大学の合格を目指す(進学))に基づいた合格実績を上げる
- ・ドリームコースは、自己を見つめ、目標を見つけ学習満足度100%を目指す



#### ④生徒個人端末導入の推進

- ・令和5年度は普通科進学系コースに加え、ドリームコースの新入生にもiPad端末を導入し、授業の様々な場面で活用する

#### ⑤就職実績

- ・例年行っている企業訪問を実施し、県内130社、県外100社を目標に企業訪問を徹底する

#### ⑥特別講習・課外活動

- ・正規授業に縛られない進路別、習熟度別など効果的な特別講習を計画・実施する
- ・資格取得、進学実績の向上のため、土曜セミナーを含め特別講習・課外授業を展開する

### | III | 生徒数の確保

#### 1. 広報

##### ①広報活動の徹底

- ・夏季・秋季のキャンパスウォークの実施
- ・本校単独学校説明会の開催
- ・中学校への出前授業、進路講話の実施
- ・中学校PTAによる学校見学会、学校説明会の受入
- ・中学校担当の職員(全教員)による中学校訪問と生徒の近況報告など連携の強化
- ・中学校教員対象の学校・入試説明会の開催
- ・塾担当の職員による塾訪問と広報活動の実施
- ・塾対象の入試、学校説明会の開催
- ・ホームページの改良

#### 2. 退学防止

##### ①教職員の情報共有と連携

- ・様々な環境に置かれている生徒に対応するため、職員研修会を積極的に開催する

#### 3. 生徒支援活動

##### ①各種関係機関との連携

- ・児童養護施設、児童相談所などと連携を取り、学年・保健室等で状況を共有し生徒を支援していく

#### 4. 奨学金

##### ①奨学制度

- ・令和3年度に変更した新奨学金制度が全学年対象と

なるため、効果について研究、総括を行う

- ・令和2年度奨学金支出からの減を目指す

### | IV | 教育施設の整備

#### 1. 施設改修

##### ①運転性能試験室床塗装補修

- ・運転性能試験室の床面が剥げるなど悪化しており、転倒などの危険性もあることから補修工事を行う

##### ②1・2号館電力デマンド設備更新

- ・リースで導入していたデマンド監視装置が老朽化し、一部機能していないため更新を行う

#### 2. 教育教材・設備の更新

##### ①1号館マルチメディア教室PC更新

- ・H27年度に導入したPC50台はOSのサポートも終了しているほか、性能も低くなっているため更新を行う

##### ②土木科測量機器更新

- ・H20年度に導入したトータルステーション8台は不具合で測量不能となることもあり授業に支障が出ているため更新を行う

### | V | 多様な連携の展開

#### 1. 地域や大学等との連携

##### ①地域行事への参加と相互協力の推進

- ・上津校区まちづくり振興会の定例会に積極的に参加する
- ・生活指導担当者なども積極的に参加し、地域の方々との連携を強化する

##### ②SDGsなど他の研究機関と連携協定の推進

- ・法人内学校との連携授業は継続する
- ・第一薬科大学との連携協定を活用し、普通科の「総合的な探求の時間」を推進していく

##### ③同窓会・後援会との連携

- ・最も信頼できる本校の協力者である卒業生や保護者の協力を得て、生徒への支援を行っていく

# ■専門学校 久留米自動車工科大学校

## 概要

世界的に不安定な経済状況下ではあるが、自動車産業は脱炭素社会に係る自動車技術の進歩もあり安定的な業績を上げている。

しかしながら、社会生活を支える基幹産業であっても、日本では自動車整備士を志願する若者の減少傾向が見られる。

本校は、企業連携による最新の自動車整備技術の修得、職業実践専門課程の認定校としてのレベルの高い教育を実施し、社会貢献できる自動車整備士を育成していることなどの特長を積極的にアピールすることで、今後の募集にも繋げたいと考えている。

主な広報手段としては、SNSやリクエスト型のOCを適宜改善を加えながら継続し、安定的な志願者の獲得を目指す。毎年80名以上の入学者獲得を目標にし、持続可能な経営を目指す。

## I | 社会貢献できる自動車整備士の育成

### 1. 教育内容の充実

#### ①教育カリキュラム等の見直し

- ・学校関係者評価及び教育課程編成委員会による意見や提言を踏まえたカリキュラム作成を継続するとともに、必要な技能・知識確保のための特別講習も随時実施する
- ・職業実践専門課程により指定されている関係企業との連携授業は活発に実施することとし、最先端の整備技術習得を実践する

#### ②教育の質向上

- ・本校は実習授業が主体であることから、コロナの影響を考慮しつつも、可能な限り対面授業を実施する
- ・学生による授業評価は継続し、結果の検証とともに、常に改善を図ることで、修学意欲の継続に繋げる

#### ③教師の教育力向上

- ・企業の技術研修は、可能な限り若い教師を中心に参加させることとする

### 2. 学生支援の充実

#### ①就学支援・既卒生の支援

- ・クラス担任制は継続し、きめ細やかな指導を心掛ける
- ・クラス担任と各管理職とも連携を図りながら生徒をフォローし、退学者数の減少を図る

#### ②就職活動支援

- ・就職内定率は各学科とも100%を12年連続で継続している
- ・今後も継続できるように職業理解教育の徹底、進路指導課とクラス担任の相互協力体制の維持とともに、各企業との細やかな連携を継続していく

#### ③退学防止の強化

- ・入学時の個人面談や実習授業参観及び個別相談などで、保護者との連携を図るとともに、一人暮らしの生徒宅への校外指導、学外カウンセラーによる個別相談など、様々な対策により退学者抑制に努める

### 3. 地域連携事業の推進

#### ①連携事業の推進

- ・コロナ禍ではあるが、可能であれば地域コミュニティや諸団体との連携に関わり、社会性を身に付ける

#### ②ボランティア活動の推進

- ・校外清掃活動と年2回の献血は継続する

## II | 持続可能な経営基盤の整備

### 1. 経営改革の推進

#### ①収支改善の検討・見直し

- ・安定した学納金収入確保のために、充実した教育内容など本校の特長をアピールするとともに、適切な広報活動を基本に80名以上の入学者確保に努める
- ・支出面では、経常的維持管理に必要な支出について、十分に検討しながら適正な執行管理を行い支出削減に努める

#### ②要員の適正管理

- ・適正な教職員体制を確保するため、計画的に人員確保に努める

## 2. 学生の確保

### ①WEBサイトの活用推進

- ・若者に対しアピール性の高い動画を中心としたHPの展開を継続していく
- ・WEB広告を活用した広報も継続しながら、出願者数増加につなげる

### ②オープンキャンパスの活用

- ・少人数リクエスト型のOCは継続する。
- ・来場者が出願したくなるような体験学習の提供、来場者への後追い広報などにも継続して注力する
- ・本年度は、前年度同様に延べ人数で150名を目標とし、来場者からの出願率60%を目標とする

## 3. 教育施設の整備

### ①建物・施設の適正維持

- ・令和3年度に策定した施設改修計画を参考にしながら、優先順位を決めて老朽化した施設改修を行う
- ・本年度は、本館のトイレ改修工事を実施する

# ■久留米自動車学校

## Ⅰ 概要

少子化や若者の車離れなどにより自動車学校の市場規模の縮小が続いており、経営環境は厳しさを増している。平成28年には1,332校の学校が営業していたが、5年後の令和3年には1,300校となり5年間で32校減少した（警察庁「運転免許統計」）。

新型コロナウイルス感染症や必需品を中心とした物価の高騰などの経済環境の急変は、家計消費の一部である運転免許取得のための「教習料」支出にも一定の影響があるものと予想される。自動車学校の経営環境は一層困難な状況が続き、業界においては今後も閉校や統合が進むと考えられている。

自動車学校の経営は、基本的には既存事業を継続していく形態であり、収益は入校生数に依存し、支出の大部分は人件費をはじめとした固定経費が占めている。損益分岐点が高い典型的な装置産業である。したがって収益の減少は直ちに規模縮小の必要性に迫られる可能性が高い。

このような産業としての特性を踏まえ、事業運営にあたっては、引き続き不確実性が高い我が国の経済情勢や自動車技術及び運転免許制度を巡る情勢を注視しながら、ローカル経済圏のなかで経営を行っている収益事業としての安定化を図っていく必要がある。

このため教習内容自体は他校との差別化を図り難いことから、利用者の視点に立った教習を継続しながら、教習内容以外の利便性や快適性向上を目指した柔軟な経営を確立することに努めることとする。以上のような基本的考え方を踏まえ、本年度は次のような課題に取り組み、収益事業としての安定経営に努めることとする。

## ⅠⅠ 教習の充実

### 1. 教育指導力の向上

#### ①教習生に応じた指導の確立

- ・多様な教習生の特性に応じた指導を行うことにより、教習生の満足度を高めるとともに、自動車学校に最も期待されている安全運転者の育成を通じ

た地域貢献を果たす。このため職員間の情報交換や研修機会の確保・充実に図り指導力向上を目指す

- ・仮免、本免の合格率向上を図る

#### ②職員のキャリアアップ促進

- ・各指導員の指導力を高めるため、各種の資格取得を促進する
- ・適切な配置替えなどを実施し、職員のキャリアアップを図る

#### ③各種講習の充実

- ・実効性のある企業提携制度について検討を行い、地域における本校の評価を高める
- ・従来の企業講習等の内容充実を行う
- ・個別企業からの要望にも対応できる交通安全教育の検討を行う

## Ⅱ 地域・社会貢献の推進

### 1. 交通安全活動の推進

#### ①交通安全活動への参画

- ・教習や各種講習を通じての交通安全啓発のほか、久留米警察署、久留米市交通安全協会、久留米市などの関係機関が企画実施する交通安全にかかる啓発事業に積極的に参加、協力を行い「地域の交通安全センター」としての役割を果たす

### 2. 地域連携の推進

#### ①行政・地域団体との連携強化

- ・自動車学校の特性と指導員等資源を活用して、久留米市や本校が立地する校区の団体と協力し、独自の交通安全啓発事業や研修会等を企画する

## Ⅲ 経営力の強化

### 1. 教習生の確保

#### ①広報の充実強化

- ・これまでの営業活動を通じて培ってきた協力先との関係を活用しながら、web 広報を重視した募集

活動を行う

- ・新しい営業手法や営業活動の再編を図る

## ②教習生確保対策の効率化

- ・教習生確保対策の一環として制定されている教習料金の各種割引制度については、収入を抑制する要因ともなることから、関係者の理解を得ながら見直しに取り組む
- ・見直しに当たっては、適正性を踏まえ効率化・重点化を図る

## ③施設・設備の適切な改善

- ・校舎をはじめ本校の施設は老朽化が進行していることから、必要な補修を行い教習機能を確実に維持できるよう図る
- ・校舎は老朽化とともに、機能性においても快適な教習環境の確保が困難となっているため、教習生確保の観点からも引き続き適切な改善を検討する

## 2. 業務の効率化

### ①効率的な組織体制の確立

- ・教習生の入校状況や学校に対する要望に応じた学校運営を図るため、業務執行の効率化を主眼とした組織、要員配置への見直しを行う
- ・見直しにあたっては、業務の効率化とともに経営課題への対応も踏まえて行うものとする

### ②経営情報の共有化

- ・経営基盤の安定化と職員育成を目的に学校内における経営情報の共有化を推進する

## 3. 収益の確保

### ①収益増加対策

- ・料金体系について周辺校をはじめとした状況調査を行い、運営コストの把握とともに適正な料金体系の確立のため引き続き見直し検討を行うこととする
- ・長期的な自動車学校の経営環境を見据え、収益増加対策の立場から学校法人内の資源も最大限に活用して新たな事業創出について研究を行う

# ■ 教習部

## 概要

本校教習部は、福岡労働局から登録を認可された登録教習機関として、10種類の建設車両の資格取得ができる教習機関である。

受講生には安全を意識した操作技術や法令、その他安全意識を高める知識の習得など、地元事業主をはじめ、広域的に信頼される「高い安全意識を持った建設機械等オペレーターの育成」に努める。

## I | 高い安全意識を持った建設機械等オペレーターの育成

### 1. 教育内容の充実

#### ① 多様な建設機械等の教習

- ・ 建設車両の技能講習、実技講習等の受講が可能であり、必要な教習用機械の日々の安全点検や定期的な更新が必要不可欠である
- ・ これらの教習環境を備えつつ、労働安全衛生法に則り、学科・実技講習を適切に実施する

#### ② 指導員の指導力の強化

- ・ 計画的な部内研修を実施することで、指導員の指導技術の向上、安全意識の高揚を図る
- ・ 受講生からの指摘等には真摯に向き合い、速やかに改善を行う

### 2. 受講生支援の充実

#### ① 各講習合格率 100%の達成

- ・ 受講生の進捗状況にも配慮した指導をすることで、学科及び実技試験の合格率 100%を目指す

#### ② 進捗に合わせた教習指導

- ・ 受講生の進捗に応じた操作教習を実施する
- ・ 普通自動車免許を保有していないなどの初心者については、少人数による丁寧な教習指導を行う

## II | 持続可能な経営基盤の整備

### 1. 経営改革の推進

#### ① 収支改善の検討・見直し

- ・ 毎年受講生数 2,900 名程度を確保することを目標とする

#### ② 要員の適正確保

- ・ 指導員の高齢化による退職動向に合わせた職員確保に努める

### 2. 受講生の確保

#### ① 受講生の確保

- ・ 自衛隊との連携体制は維持する
- ・ 年間 3 回実施している DM による講習周知は継続して実施する
- ・ 年間計画を記したカレンダーを送付するなど、講習の周知を効果的に行う
- ・ 受講生に対し、受講時期、受講に当たっての免除項目、受講料金等のメリットがある情報を提供する

### 3. 教育施設の整備

#### ① 建物・施設の適正維持

- ・ 工学部と同様に教育施設改修計画に沿う形で計画的に施設改修を行い、適正維持を図る

#### ② 教習コース・教習用備品の整備

- ・ 教習に使用する建設車両等は相当な年数が経過しているものもあり、日頃からの点検整備を実施しながら、安全性・快適性を確保していく